

# 2009 年 4 月号 目次

## 【トピックス】

食品等の苦情品検査(その2)-食品添加物担当で行った理化学検査- . . . . .	1
医動物検査 . . . . .	8

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 3月 . . . . .	10
感染症発生動向調査における病原体検査 3月 . . . . .	13

## 【検査結果】

由来別病原菌検出状況 3月 . . . . .	14
-------------------------	----

## 【情報提供】

衛生研究所 WEB ページ情報(20年度3月分) . . . . .	15
------------------------------------	----

## 食品等の苦情品検査(その2)

-食品添加物担当で行った理化学検査-

平成20年度下半期に、福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物担当へ搬入された検体は67件122検体でした。本年度も昨年に続き苦情品の件数が増加しました。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多くみられました。理化学検査を中心に行ったうち主な検体の検査結果は次のとおりです。

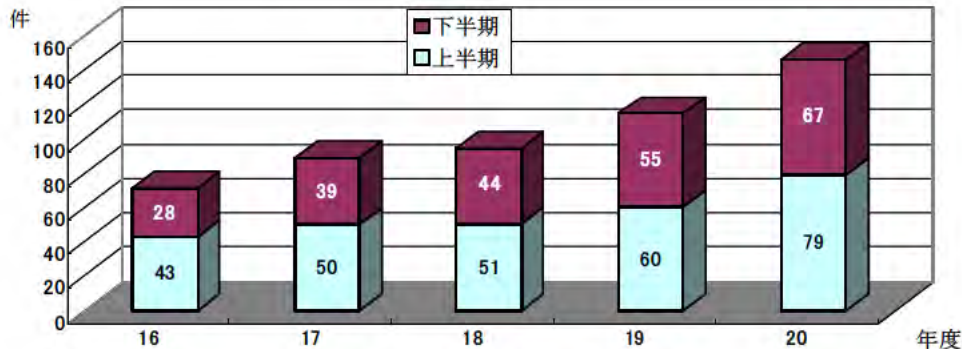




図 苦情品検査受付件数の推移




品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
豚肉挽肉 	小さな金属片が入っていた。	外観  顕微鏡 マイクロアナライザー 結果	大きさ4mm×1mm×0.5mm、重さ24mg。金色の金属様の固まり。 削られた跡が認められた。 銅と亜鉛の元素を認めた。 真鍮(銅と亜鉛の合金)の破片と推定された。
コーンサラダ 	金属片が入っていた。	外観  顕微鏡  結果	大きさ8mm×1.5mm、重さ22mg。片面は銀色で、反対面は金色の金属片。 片面の縁は削られた跡があり、対照品の缶のふたの切断面に類似していた。反対面は金色のフィルムでコーティングされており、一方向に多数の線が認められた。また、一部にフィルムの剥離がみられた。対照品のフィルム部分と類似していた。 異物の形態から、缶の切りくずと推定された。
調味梅干	薬品臭がする。	官能検査  GC-MS(包装材)  GC-MS(食品)  結果	梅干には異臭を認めなかったが、袋の外部に異臭を認めた。 袋の外側の片面をn-ヘキサンで浸した脱脂綿でふき取り、測定したところ、C13～C20の直鎖の炭化水素が認められた。 梅干を同量のn-ヘキサンで抽出して測定したところ、C13～C20の直鎖の炭化水素は認められなかった。 袋の外側に軽油又は重油が付着したものと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
胚芽米 	黒い固まりが入っていた。	外観 性状 顕微鏡 赤外KBr法 ヨウ素デンプン反応 結果	大きさ4mm×2mm、重さ10mg。不定形で灰黒色の弾力のある固まり。 水に浸すとふやけ、ご飯粒のかけらや細かな黒いものが点在するだんご状のものがみられた。 米と小麦のデンプン粒を認めた。他にも黒い微細なものを認めた。 デンプンと同様な吸収スペクトルを認めた。 陽性 ご飯、小麦粉、植物片等の固まりと推定された。
味なす(塩漬)	食べて、気分が悪くなった。	GC-MS 結果	エタノール:5200ppm 酢酸エチル:1100ppm 異常発酵によりエタノール、酢酸エチルが生成されたものと推定された。
福神漬	福神漬を食べたところ、異臭がして吐き出した。	GC-MS 結果	エタノール:230ppm 酢酸エチル:680ppm 異常発酵によりエタノール、酢酸エチルが生成されたものと推定された。
ポテトチップス 	異物が入っていた。	外観 赤外KBr法 顕微鏡 結果	大きさ10mm×0.5mm、6mm×0.8mm。透明で薄片状の固まりで、一部に黒い部分を認めた。 対照品のポテトチップスと同様な吸収スペクトルを認めた。 陽性 ポテトのデンプンの固まったものと推定された。
アメリカンドッグ 	かびの様なものがついている。	外観 顕微鏡 結果	直径3mmの黒い円形の部分を認めた。 黒いものが、油様のものに覆われて、埋もれていた。 黒い部分を顕微鏡で観察すると、菌糸様のものが多数認められた。 かびの固まりと推定された。
石焼ビビンバ 	プラスチックのかけらが入っていた。	外観 顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ21mm×10mm×2mm、重さ0.21g。無色半透明なプラスチック片。 参考品の1つと重なり合う部分を認めた。 ポリプロピレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
シーフードヌードル 	黒い固まりが入っていた。	外観 燃焼性 その他 顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ3.9mm×2.1mm、重さ4.8mgの黒い固まり。 加熱すると、魚介類を焼いた臭いを発した。 水に浸すと、弾力のある固まりになった。 動物性の細胞を認めた。 タンパク質と同様な吸収スペクトルを認めた。 魚介類の破片と推定された。
ダイコンとジャコ のサラダ	黒いひもが入っていた。	外観 赤外KBr法 結果	長さ81mm×太さ0.17mm、重さ1.7mg。黒色で、太さがほぼ一定な繊維。 ポリエチレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレン樹脂製の繊維と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
発芽玄米 	ガラスのかけらが入っていた。	外観  マイクロスコープ  光学透過顕微鏡 赤外KBr法  ヨウ素デンプン反応 結果	大きさ2mm×2mm、重さ7.4mgの無色透明の固まり。 大きさ4mm×3mm、重さ19.8mgの白色の固まり。 透明の固まりは細かなヒビが多数入ったガラス様であった。白色の固まりは水に浸すと白色物が表面からはがれ、内部は透明な細かなヒビが多数入ったガラス様であった。 米のデンプン粒を認めた。 無色透明物質はガラスと同様な吸収スペクトルを認めた。 白色の異物は陽性。 透明な異物はガラス片であり、白色の異物はガラスの破片に米ぬかがついたものと推定された。
豚小間切れ肉 	注射針の様なものが入っていた。	外観  性状 マイクロスコープ  マイクロアナライザー 結果	長さ16mm×太さ1mm、重さ46mg。銀色で中空の細い管状の金属で、先端に斜めの切り口が見られ、他端は折れた状態であった。注射針に類似していた。 磁性を認めた。 管は内径0.7mm、厚さ0.15mmであり、先端の切り口中央部に擦り跡を認めた。また、先端の反対面の両脇に小さな切り口が見られた。管の中央部に螺旋状の傷を認めた。 鉄、クロム、ニッケル(7:2:1)の元素を認めた。 注射針の一部と推定された。
給食 	白い硬い固まりが入っていた。	外観  燃焼性  赤外KBr法  結果	大きさ2mm×1mm～3mm×2mm、重さ0.1mg以下～1.7mg。4個の白色の硬い薄片の固まり。 炎で燃やすと最初、黒くなり、さらに強熱すると白色の硬い固まりが残った。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは骨を灰化したものと同様な吸収スペクトルを認めた。 骨の破片と推定された。
給食(チャンポン) 	ビニールの破片が入っていた。	外観  赤外KBr法  結果	大きさ9cm×2.5cm、重さ73mg。無色透明の薄いフィルム状のもの。 ポリ塩化ビニリデンと同様な吸収スペクトルを認めた。(対照品と同様であった。) ラップ(ポリ塩化ビニリデン)の破片と推定された。
メンチカツ 	糸の固まりが出てきた。	外観 マイクロスコープ 光学透過顕微鏡 赤外KBr法  結果	細い白色繊維の丸まったもの。 無色半透明の繊維。太さは約0.01～0.03mm。 表面が滑らかな、太さが均一な繊維を認めた。 ポリエステル樹脂(PET)に類似した吸収スペクトルを認めた。 ポリエステル繊維の糸の固まりと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ごま酢あえ 	金属片が入っていた。	外観  マイクロスコープ  マイクロアナライザー 結果	大きさ40mm×2mm、厚さ0.4mm、重さ60mg。三日月状をした銀色で硬くて折れやすい金属片。 片面は横に多数の線が認められた。反対面は鱗状の細かなヒビが認められた。 アルミニウムの元素を認めた。 アルミニウムの金属片と推定された。
黒糖かん 	金属の固まりが入っていた。	外観  性状 マイクロスコープ  マイクロアナライザー 結果	一部が湾曲した銀色の金属片で、発見時は1片で取扱中に3個に破断。3個とも大きさ4mm×1mm×厚さ0.3mm、重さ6mg。 磁性を認めた。 3個とも、一部が三日月状に湾曲したもので、両脇は垂直に平らに加工されていた。 鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。 加工されたステンレス製の破片と推定された。
給食 	金属片が入っていた。	外観  性状 マイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	大きさ8mm×1mm×1mm、重さ4mg。丸まった銀色の金属片。 磁性を認めない。 丸まった外側面に削れた多数の傷を認めた。 アルミニウムの元素を認めた。 野菜裁断機の削り取られたアルミニウム金属片と推定された。
麦ご飯 	繊維の固まりが入っていた。	外観  光学透過顕微鏡  赤外KBr法 結果	大きさ20mm×5mm、重さ13mg。白色で一部が赤い細い繊維の固まり。 太さ10～15μmで均一な無色透明な繊維で中央にくぼみの筋を認めた。 アラミド繊維と同様な吸収スペクトルを認めた。 乾式洗米機に使用していた羽フェルトのアラミド繊維の固まりと推定された。
ソーセージ	異味異臭が認められた。	GC-MS 結果	苦情品5検体からトルエン39～102ppmを検出した。 その後の調査の結果、包装材の多層フィルムの接着剤の不備で乾燥が不十分で残留したトルエンがソーセージに移行したものと判明した。
肉豆腐 	金属片が入っていた。	外観  性状 マイクロスコープ  マイクロアナライザー 結果	長さ35mm×幅0.55mm×厚さ0.04mm、重さ5.6mg。 銀色のテープ状の金属片。 磁性を認めた。 幅と厚みが均一で表面は比較的滑らかで、長い方向にスジが走っていた。側面の所々に破損部を認めた。 鉄、クロムの元素を認めた。 ステンレス製の金属タワシの破片と推定された。(参考品とは組成は同じであったが、幅が異なった。 )

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
米	もらった米を炊いたところ、異臭がした。	外観 pH 官能試験 米鮮度試験  結果	対照品の米と比べて異常は認められなかった。 7.0 6名で行ったところ、異臭を認めた。 対照品の米と比べて酵素活性が低下していた。(グアヤク脂法) 対照品の米と比べて酸化していた。(pH指示薬法) 対照品の米と比べて鮮度が低下しているものと推定された。
七草がゆ 	金属が入っていた。	外観  性状 マイクロアナライザー 結果	長さ6mm×幅1.2～1.3mm、重さ147mg。銀色の半円状の金属片。片側の切り口は斜めになっており、反対側は垂直に折れた状態であった。 わずかに磁性を認めた。 ニッケルの元素を認めた。 ニッケル製の金属加工品と推定された。
あげパン 	緑色の固まりが入っていた。	外観  顕微鏡 赤外KBr法 結果	大きさ2.7～4.5mm×0.6～2.4mm、重さ0.6mgの緑色の薄片。 一方向に細かな線が多数見られた。 ポリプロピレンと同様な吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
ベビーチーズ 	毛が入っていた。	外観  光学透過顕微鏡  走査電子顕微鏡  その他 結果	チーズ中に一部埋もれた状態で、長さ12cm、太さ53μmの淡褐色の毛の様なものが認められた。 毛根を有するが、毛髄質はほとんど認められなかった。 毛根を有し、ヒトと同様な毛小皮紋理(キューティクル)を認めた。 カタラーゼ活性あり。 ヒトの毛髪と推定された。
ミニパック醤油 	硬い固まりが入っていた。	外観  溶解性 塩化物  原子吸光分析  結果	大きさ6mm×5mm×3mm、重さ126mgの褐色透明な結晶状の固まり。 水に可溶。 苦情品の水溶液に硝酸銀溶液を滴下したところ、白濁した。(塩素イオンの確認) ナトリウム:40.5%(塩化ナトリウムとして103%)を認めた。 醤油中の食塩(塩化ナトリウム)が析出したものと推定された。
魚のフライ 	毛が入っていた。	外観 光学透過顕微鏡  走査電子顕微鏡  結果	長さ25mm×太さ50μmの紺色の繊維を認めた。 紺色で表面に小皮紋理と中心の部分に髄を認めた。 鱗片状の小皮紋理と細い髄を認めた。毛糸の繊維と形態が類似していた。 毛糸の繊維と推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
ロールパン 	パンの袋の中にプラスチック様異物が付着していた。	外観 マイクロスコープ 赤外KBr法 結果	直径4mm、重さ1.5mg。褐色の円盤状の薄片。片面は表面が滑らかで、大きなしわが見られた。反対面は細かなヒビを多数認めた。牛乳のこげと類似した吸収スペクトルを認めた。乳製品のこげたものと推定された。
りんごジュース	飲んだところ味がおかしい。	外観 官能検査 GC-MS 真菌検査 結果	容器上面にストロー穴に掛けて切りキズを認めた。また、容器内の液上面に40mm×40mm×厚さ7mmの浮遊物を認めた。表面は白色で緑色の斑点がみられ、裏面は淡褐色のクッキー様の固まり。ジュースは茶褐色で濁っていた。参考品のりんごジュースとは異なった溶剤様の甘い臭いがした。りんごジュースの香気成分(アルコール類やエステル類)由来のピークの他、6-アミル-2-ピロンを認めた。 <i>Trichoderma</i> 属かびの発生による変質と推定された。
給食 	プラスチック片が入っていた。	外観 マイクロスコープ 赤外KBr法 結果	大きさ6mm×2mm×厚さ0.6mm、重さ2.6mg。淡褐色透明で三角形の薄いフィルムとやや厚いフィルム片の重ね合わさったもの。薄いフィルムは淡褐色で、やや厚いフィルムは無色透明で一辺で接着していた。薄いフィルム及びやや厚いフィルムはポリエチレンとナイロン(ポリアミド)を重ねたものに吸収スペクトルが類似していた。ケチャップ袋の貼り合わせ部分の破片と推定された。
大根サラダ 	金属片が入っていた。	外観 性状 マイクロスコープ マイクロアナライザー 結果	大きさ4.5mm×0.5mm、重さ0.7mg。両端が尖った銀色の金属片。磁性を認めた。片面は滑らかであり、反対面は凹凸のあるしわのよった状態であった。鉄、クロム、ニッケルの元素を認めた。削り取られたステンレスの金属片と推定された。
チョコレート 	食べていたら、硬いものが最後に口の中から出てきた。	外観 赤外KBr法 HPLC分析 結果	大きさ15mm×幅7～9mm、重さ0.33gと大きさ15mm×幅2～8mm、重さ0.18gの淡褐色の固まり。ショ糖に類似した吸収スペクトルを認めた。また、当所で用意したバター味の飴に類似していた。ショ糖を認めた。また、バター味の飴に類似したクロマトグラムを認めた。飴の固まりと推定された。

品名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
挽肉 	ガラス片の様なものが入っていた。	外観  赤外KBr法 結果	大きさ11.7mm×5.6mm、厚さ2.5mm、重さ0.15g。無色透明で部分的にとがった角のある不定形なガラス状の破片。 ガラスと同様な吸収スペクトルを認めた。 ガラス片と推定された。
パン 	プラスチック様のものが入っていた。	外観  赤外KBr法 結果	長さ9.0mm、太さ0.4mm、重さ1.7mg。白色で棒状の異物。 骨と同様な吸収スペクトルを認めた。灰化後のものは、骨を灰化したものと同様の吸収スペクトルを認めた。 骨の一部と推定された。
ぶどうパン 	木片の様なものが入っていた。	外観  光学透過顕微鏡  マイクロスコープ 赤外KBr法 リグニン反応 結果	大きさ13mm×幅2～4mm×厚さ1mm、重さ32mg。淡褐色の固まり。 切片を作り、メチレンブルーで染色すると細胞、維管束等の植物構造を認めた。 表面に繊維状のものを認めた。 木と同様な吸収スペクトルを認めた。 維管束部分が赤色になり木質を認めた。 植物組織の一部と推定された。
即席カップめん 	爪の様なものが入っていた。	外観  マイクロスコープ  赤外分光分析 キサントプロテイン反応 結果	大きさ15mm×3mm×1mm、重さ24mg。淡黄色の三日月状の薄片。 片面は滑らか、反対面は凹凸があり、淡茶色の付着物が見られた。全体に筋があり、きれいな切断面が認められた。 爪と同様な吸収スペクトルを認めた。 陽性(タンパク質の確認)。 爪と推定された。
赤ワイン 	沈殿物があった。	外観  マイクロスコープ 赤外KBr法 結果	瓶の底に赤紫色の細かな沈殿物を認めた。沈殿物の総重量は0.3gであった。 赤紫色の結晶状の固まりを認めた。 酒石酸水素カリウムと同様な吸収スペクトルを認めた。 赤ワイン中に析出した酒石酸水素カリウムと推定された。
発泡酒 	異物が入っていた。	外観  光学透過顕微鏡  マイクロスコープ  赤外KBr法 リグニン反応 結果	大きさ10mm×7mm、重さ13mg。茶色の硬い固まり。 維管束等の植物組織を認めた。当所で用意したピスタチオの甘皮も同様であった。 表面に細かな凹凸と、淡黄色の三角柱状の突起物が認められた。ピスタチオの甘皮に類似していた。 木と同様な吸収スペクトルを認めた。 維管束の部分が赤色に変色した。 植物片(ピスタチオの甘皮の一部)と推定された。

【 食品添加物担当 】



# 医動物検査

医動物担当における平成21年1～3月の検査件数を表に示しました。

【行政検査:福祉保健センター、市場食品衛生検査所など行政からの依頼】

食品中異物検査が2件(白玉雑煮に混入したアブラムシ類、ポンカンに入っていたハマキガ科の一種;幼虫)でした。

種類同定検査が5件(オオワラジカイガラムシの1齢幼虫、シミ科の一種、クロバネキノコバエ科の一種;幼虫 2件、ノコトガリキリガの幼虫)でした。

【依頼検査:市民、事業者からの有料依頼】

種類同定検査が2件(オオワラジカイガラムシの1齢幼虫、クロバネキノコバエ科の一種)でした。

ゴキブリに対する殺虫剤効力試験(実地効力試験)を行いました。

【その他:感染症媒介昆虫等の市内における生息状況調査や市民からの問い合わせ等】

中区、磯子区、南区でライトトラップを用い、週に1回飛翔昆虫調査を行いました。1～3月中に、37定点の調査を行いました。

また、中区の5飲食店、47定点で粘着式トラップによるチャバネゴキブリの生息状況調査を実施しました。1～3月中に、のべ572か所の調査を行いました。

感染症媒介昆虫調査の一環として、衛生研究所周辺において雨水枡中の昆虫調査を行いました。

検査試験項目	平成21年			平成20年4月	
	1月	2月	3月	～平成21年3月	
行政検査	種類同定検査		2	3	145 件
	食品中異物検査	1	1		16 件
	ウエストナイル熱蚊検査				
	採集地点数				200 定点
	個体数				3,843 個体
依頼検査	種類同定検査	1	1		10 件
	食品中異物検査				0 件
	発生状況調査(ダニ類)				
	調査回数				0 件
	個体数				0 個体
	殺虫剤効力試験			10	24 件
その他	ゴキブリ調査	230	192	150	2,400 カ所
	飛翔昆虫調査	12	12	13	192 定点
	その他の調査等			54	920 件
	問い合わせへの回答	11	18	8	178 回

## 検査試験項目等 解説

### 種類同定検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった昆虫・ダニ類の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、その発生時期、発生場所、害の有無などに基づいて駆除の必要性、駆除方法、予防法などが明らかになります。

### 食品中異物検査

福祉保健センター、市民、事業者などから依頼のあった食品に混入した昆虫の種を調べます。種が明らかになることにより、生態等が判明し、混入経路を推定する一助となります。

### ウエストナイル熱媒介蚊調査

健康福祉局の「ウエストナイル熱対策事業」におけるウエストナイルウイルスの調査を行っています。種ごとのウイルス保有状況を調べるため、市内公園や港湾地区などで採集された蚊を分類同定します。なお、採集した蚊についてはウイルス担当において、日本脳炎ウイルスの検査も合わせて行っています。

### ダニ類等発生状況調査

市民からのかゆみや虫刺されの相談に基づいて、必要に応じて、住宅内でのダニ検査を行います。ダニ発生の有無を調べ、発生している場合には人を刺すダニであるかなどの検査を行います。

### 殺虫剤効力試験

新しく開発された防疫用殺虫剤の効力試験を、室内(基礎)および野外(実地)で行います。

### ゴキブリ調査

実際に営業している飲食店におけるゴキブリの生態を把握するため、また殺虫剤の実地効力試験の予備調査として、ゴキブリ生息状況調査を行っています。

### 飛翔昆虫調査

ライトトラップを用い、時期ごとに大量発生している昆虫類等の発生状況や感染症媒介昆虫である蚊類成虫を中心とした飛翔昆虫の発生状況を調査しています。

### その他の調査等

20年度は、雨水枡内での蚊の生息状況観察と幼虫に対する薬剤効果試験を行っています。

### 問い合わせ

市民の方などから相談のあった、昆虫・ダニ一般、昆虫媒介性疾病、殺虫剤などに関する不安、疑問に回答、助言、指導をします。



冬12月頃、孵化します！小さいですが、動きは活発、屋内に迷い込むこともあります。害はありませんので、ご安心を…。

写真:オオワラジカイガラムシ1齢幼虫  
(体長約1.5mm)

【 医動物担当 】

# 感染症発生動向調査委員会報告 3月

## 今月のトピックス

- インフルエンザは再度増加しましたが、現在は減少傾向が見られています。
- インフルエンザ迅速診断用検査キットによる型別の集計ではほとんどがB型です。
- 2008年度の12月末現在のMRワクチン接種率は、第 期63.9%、第 期63.5%、第 期45.0%でした。対象者には早期の接種をお勧めください。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成21年 週 - 月日対照表

第8週	2月16～22日
第9週	2月23～3月1日
第10週	3月2～8日
第11週	3月9～15日
第12週	3月16～22日

平成21年2月16日から3月22日まで(平成21年第8週から第12週まで。ただし、性感染症については平成21年2月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

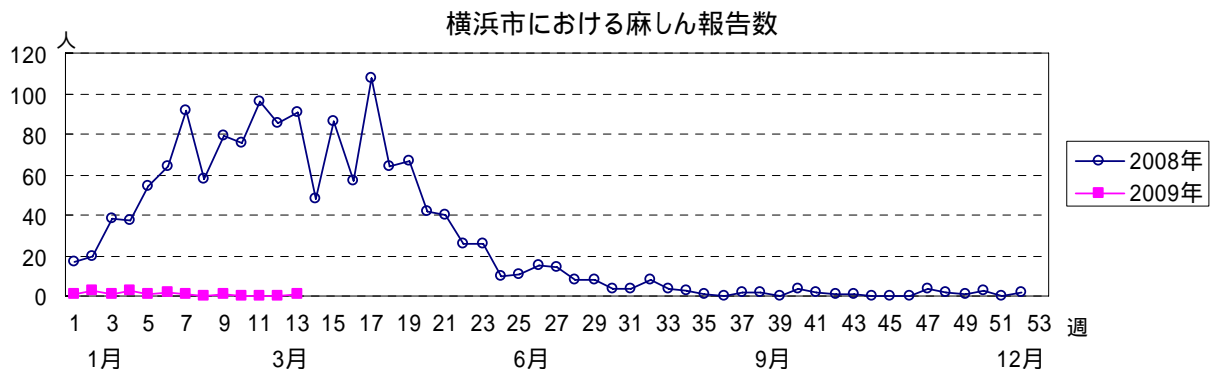
### 全数把握の対象

#### < 麻しん >

2008年から感染症法における5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.gov/jp/disease/measles/index.html>)

2009年3月は26日現在で1例の報告があり、予防接種を1回受けていました。

ひと月で100例以上の報告があった2008年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は予防接種を2回受けることが大切です。



横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻しん排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

## 定点把握の対象

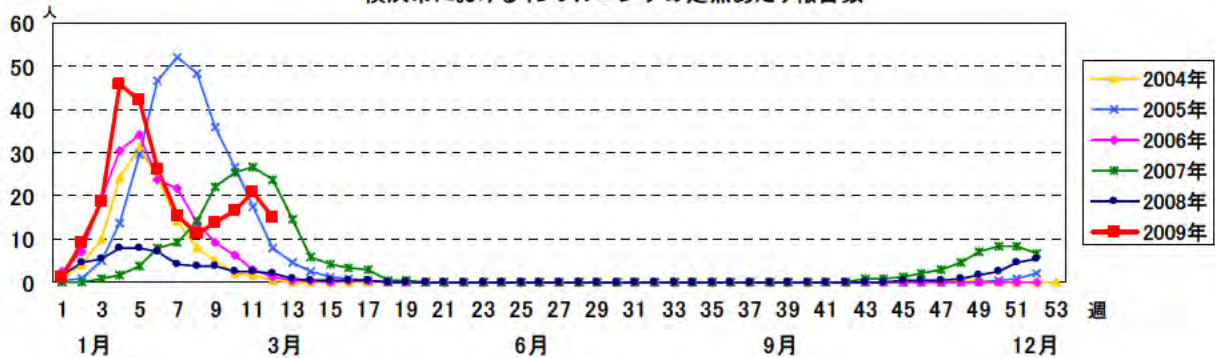
### <インフルエンザ>

今シーズンは、過去5年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週に流行の目安となる「定点あたり報告数1.0」を超え、2009年第3週に横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第4週にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。

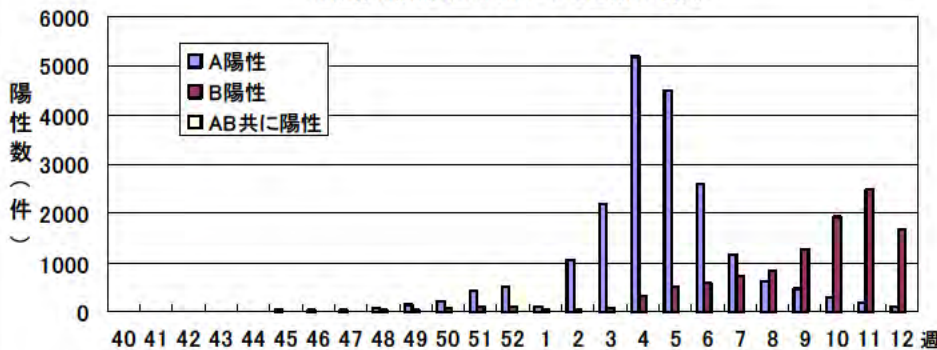
その後は減少しましたが、第9週から再び増加に転じ、第11週はさらに増加して定点あたり報告数20.69となりました。第12週は14.94と減少しています。行政区別では、磯子区(28.40)、緑区(23.00)、泉区(23.00)、港南区(22.25)、都筑区(20.63)、栄区(18.80)、青葉区(16.00)、西区(15.60)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません。神奈川県(横浜、川崎を除く)は15.53、川崎市は13.40、全国は15.63でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第12週にA型105件、B型1673件、A・B共に陽性11件の報告があり、B型が優勢です。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



また、2008年第46週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて217件あり、その内訳はAH1(ソ連型)106件(48.8%)、AH3(香港型)44件(20.3%)、B型67件(30.9%)となっています。

学校等における集団かぜは2009年3月21日までに施設閉鎖12施設(12施設)、学年閉鎖20施設(21学年)、学級閉鎖141施設(197学級)の報告がありました。

AH1(ソ連型)分離株は遺伝子解析を行った86件すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った32件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し2009年第12週は1.81でした。行政区別では港北区(6.14)が高く、次いで保土ヶ谷区(3.60)、泉区(2.50)、瀬谷区(2.50)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.36、川崎市は1.55、全国は2.32でした。

#### < 感染性胃腸炎 >

昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第12週は5.20となりましたが、ノロウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では瀬谷区(11.50)、緑区(11.00)、港北区(7.86)、泉区(7.75)、戸塚区(7.17)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は6.79、川崎市は6.94、全国は7.49と、いずれも横浜市より高い値です。

#### < 水痘 >

例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し、第12週は1.76と、現在は例年並みの水準で推移しています。例年、春にかけて流行しますので注意が必要です。行政区別では泉区(4.75)、瀬谷区(4.50)、都筑区(3.80)、緑区(2.67)、戸塚区(2.00)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.25、川崎市は1.24、全国は1.65でした。

#### < 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

2月は、1月に比べて全体としては横ばいですが、淋菌感染症がやや増加しています。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、尖圭コンジローマで1例でした。

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8 か所、インフルエンザ(内科)定点:5 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院)定点:3 か所、の計 17 か所を設定しています。検体採取は、小児科定点 8 か所を 2 グループに分け、4 か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

#### < ウイルス検査 >

2009年3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点51件(鼻咽頭ぬぐい液47件、糞便2件、うがい液1件、直腸ぬぐい液1件)、内科定点12件(鼻咽頭ぬぐい液11件、うがい液1件)、基幹定点4件(咽頭ぬぐい液)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎38人、発熱のみ7人、胃腸炎(下痢・嘔吐含む)3人、発疹2人、頭痛1人、内科定点は気道炎7人、関節痛2人、発熱のみ2人、頭痛1人、基幹定点は肺炎3人、インフルエンザ様疾患1人でした。

4月10日現在、小児科定点では、気道炎患者21人からインフルエンザウイルスB型(以下B型)、2人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、1人からアデノウイルス(型未同定)、発熱のみ7人からB型、頭痛1人からB型が分離されています。また、内科定点では、気道炎患者4人からB型、2人からAH3型、頭痛患者1人からB型、関節痛患者1人からインフルエンザウイルスAH1型が分離されました。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者2人からそれぞれAH3型、B型、胃腸炎患者2人からノロウイルスG2型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

#### < 細菌検査 >

3月の感染性胃腸炎関係の菌株受付は3件で起因菌は検出されませんでした。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は11件でA群溶血性レンサ球菌が6件とB群溶血性レンサ球菌が1件検出されました。また、髄膜炎が1件で起因菌は検出されませんでした。

# 感染症発生動向調査における病原体検査 3月

## 感染性胃腸炎

2009年3月

検査年月	3月		2009年1～3月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	2	1	0	17
菌種名				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				
毒素原性大腸菌				
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出	2	1		17

## 呼吸器感染症等

2009年3月

検査年月	3月		2009年1～3月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	12	1	28	1
菌種名				
A群溶血性レンサ球菌	T1		1	
	T2		1	
	T3	1	2	
	T4		1	
	T12	2	6	
	T13			
	T25			
	T28	1	3	
	TB3264	1	1	
	T型別不能	1	2	
B群溶血性レンサ球菌		1	1	
G群溶血性レンサ球菌				
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌				
インフルエンザ菌				
肺炎球菌		1		1
不検出	5		10	

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【細菌担当】

# 由来別病原菌検出状況 3月

2009年3月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	3月	2009年1-3月	3月	2009年1-3月	3月	2009年1-3月
件数	99				18	
<b>菌種名</b>						
コレラ O - 1						
O - 1以外						
赤痢菌 A						
B						
C						
D						
	1	2				
その他						
		1				
チフス菌						
パラチフスA菌						
	1	1				
その他のサルモネラ						
O4群						
O7群						
		1				
O8群						
O9群						
O3, 10群						
その他						
腸管病原性大腸菌						
毒素原性大腸菌						
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌						
	1	5				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ビブリオ						
黄色ブドウ球菌						
					8	
カンピロバクター						
ウェルシュ菌						
	11	11				
A群溶血性レンサ球菌						
	5	17				
B群溶血性レンサ球菌						
	1	1				
レジオネラ						
	1	1				
セレウス菌						
その他						
	1*	1				

\* *Streptococcus pneumoniae*

【細菌担当】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度2月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度3月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2009年2月のアクセス件数、アクセス順位及び2009年3月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (2009年2月)

2009年2月の総アクセス数は、136,626件でした。主な内訳は、感染症55.9%、食品衛生18.8%、保健情報8.8%、検査情報月報3.0%、生活環境衛生1.6%、薬事1.6%でした。

### (2) アクセス順位 (2009年2月)

2月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、2位が「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」、3位が「英字略語集(ABC順)」でした。

国立感染症情報センターによると、2008年末からマイコプラズマ肺炎の報告数の増加がみられ、2009年第13週(3月23日～3月29日)までの報告では、第9週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較すると、やや多い傾向で推移しています。

2位に「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」が入りました。2008年12月19日から、日本でもHibワクチンが発売開始となり、2009年1月からアクセス数が増加しています。

2008年の感染症発生動向調査によると、全国500の基点定点から報告された細菌性髄膜炎の患者は410人で、全国で年間500～600人(2か月～5歳児の1/2000)と推定されています。

患者の年齢は0歳代が25%と最も多く、0～1歳で48%を占めています。5歳以上になるとインフルエンザ菌に対する抵抗力が作られるため、発病はまれになります。

死亡は約5%(20人に1人)で、20～30%にてんかん、難聴、発育障害などの後遺症を残します。

初期症状は発熱、嘔吐、元気が無いなど、かぜ症状と変わりなく、早期診断が困難で、しかも急速に病状は進行します。

2000年以降、Hib髄膜炎の治療薬アンピシリン(ABPC)だけでなく、セフトラキソン(CTX)にも抵抗性を持つ、ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性(BLNAR)などの耐性菌の増加や、病状の進行が早いために、抗生剤治療が困難になっています。

表1 2009年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	5,713
2	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	5,158
3	英字略語集(ABC順)	2,090
4	大麻(マリファナ)について	2,006
5	インフルエンザについて	1,874
6	感染症発生状況	1,855
7	電子パンフレット(MRSA)	1,754
8	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	1,734
9	ライノウイルスについて	1,722
10	百日咳について	1,721

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課



このような状況下で、2007年1月26日、Hibワクチン(アクトヒブ)がようやく厚生労働省によって、製造販売が承認されました。

< 諸外国におけるHibワクチンの効果 >

アメリカにおける髄膜炎患者は、1980年15,000人から1995年には86人に、死亡者は500人から5人に激減しました(1990年からアメリカで接種が開始されました)。

一方ヨーロッパでも、ドイツではHib髄膜炎の5歳未満の人口10万人あたりの罹患率がワクチン導入前(1991年以前)の23から、ワクチン導入後(1992～1993年)には1.9に、オランダでもワクチン導入前(1992年以前)の22が、ワクチン導入後(1992～1993年)には0.6まで劇的に減少しています。

世界保健機関(WHO)でも1998年に、乳児への定期接種を推奨する声明を出しています。その結果、Hibワクチンは世界中で100か国以上が導入し、92か国で定期接種されています。そして、Hibワクチンが導入された国々では、Hib髄膜炎はほぼ根絶されています。

< Hibワクチン接種費用 >

Hibワクチンが2008年12月19日より発売されましたが、任意接種のため、料金がかかります。

Hib髄膜炎の深刻さ、Hibワクチンの有効性を考えれば、一刻も早く定期接種化または費用負担軽減などの対策が望まれます。

Hibワクチンの接種費用を助成する自治体が増えており、鹿児島市や東京都渋谷区など少なくとも全国14市区町村が助成制度を開始しています。

(3) 電子メールによる問い合わせ (2009年3月)

2009年3月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、2件でした(表2)。

表2 2009年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
B群連鎖球菌について	1	衛生研究所
研究所の所報の電子公開について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2009年3月)

2009年3月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 2009年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月9日	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	更新
3月9日	調査研究・試験検査機関のあり方に関する報告書	追加
3月11日	感染症に気をつけよう(3月号)	追加
3月13日	英字略語集(ABC順)	更新
3月13日	セラチア菌による院内感染、日和見(ひよりみ)感染について	更新
3月26日	横浜市における麻しん患者届出状況 (2009年)	更新
3月27日	学校感染症について	更新
3月27日	学校保健安全法について	追加
3月27日	横浜市インフルエンザ等流行情報 11号	追加
3月31日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】